

# 新夕日ヶ丘で会える！

季節によって会える生き物も様々です！ゆっくり過ごしてみませんか？

ハハジマメグロ



オガサワラクマバチ



オガサワラシジミ



トライオン  
ノミガイ



ムニアヒメツバキ



メジロ



オガサワラ  
チビクワガタ



画：島の子供

ムニン  
セジニソウ



アカガシラ  
ガラスバト



ハシナガウグイス



オガサワラゼミ



オガサワラノスリ



ハハジマ  
ヒメカタソウムシ



イソヒヨドリ(♂)



オガサワラ  
ヒバリモドキ



画：島の子供

オガサワラ  
タマムシ



アシナガグモ



画：島の子供

オガサワラ  
ヒヨドリ



# 新夕日ヶ丘で見える！

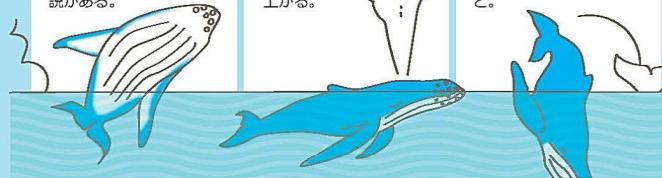
## ザトウクジラのウォッティング！

陸上にいても  
ウォッキングできます！

小笠原は日本のホエールウォッキング発祥の地。ザトウクジラは、冬から春にかけて子育てのためにやってきます。開けた展望スペースのある新夕日ヶ丘は、母島では数少ないウォッキングポイント！ベストシーズン（12月～4月頃）は風が冷たくなっている時期なので、寒さ対策を忘れずに！

### ブリーチング：

大きなジャンプ。行動の理由は判っていない。寄生虫を落とす為、コミュニケーションの手段、単に楽しんでいる等様々な説がある。



### ブロー：

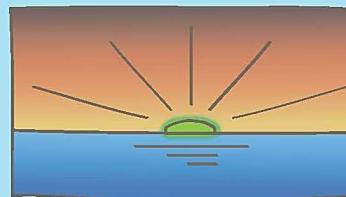
呼吸のために、水面に浮上した時に吐く息（潮吹き）。4～5mの高さにまっすぐ上がる。

### ブルークアップタイプ：

テール（尾びれ）を高々と水面上に上げ、この時、角度によってはテールの裏側の模様が見られる）海中に潜っていくこと。

太平洋が一望できるこの場所で  
夕日観賞がオススメです！

## グリーンフラッシュ！



グリーンフラッシュ（緑閃光）は、気象や湿度などの条件が揃った時、日の出・日の入りの瞬間、太陽の縁が緑色に光って見える奇跡の現象です。新夕日ヶ丘から夕日を観る時、水平線に雲がなかつたらよく見てみましょう。完全に沈む直前に緑色の光が一瞬輝くように見えるかも！？

## 新夕日ヶ丘への行き方

船客待合所（母島観光協会）から  
車で10分

▲集落内より北は、飲食店や自動販売機がありません。必ず水分を用意してお出かけください。

▲新夕日ヶ丘にはトイレがありません。事前に、観光マップや母島観光協会でご確認ください。

制作・発行 環境省関東地方環境事務所

編集 一般社団法人 小笠原環境計画研究所

写真提供 母島の島民

デザイン ハヤシ ケイコ（母島在住）

2020年3月



# 新夕日ヶ丘

母島船客待合所から車で10分！

太平洋が一望できる新夕日ヶ丘は、母島で唯一の自然再生区です。  
周囲をアノール防止柵で囲い、母島の固有昆虫の保全を図っています。

World Natural Heritage Ogasawara Islands

世界自然遺産 小笠原諸島

# 新夕日ヶ丘は母島で唯一の自然再生区

母島の西浦に位置する「新夕日ヶ丘」。夕日の景勝地として、また春にはオガサワラシジミが見られる場所として密かに知られていました。この場所に生息する希少な生き物を守るために、環境省が民有地を購入・取得。そして、2007年に小笠原本來の生物相を保全する取り組み(=自然再生)を行う「自然再生区」となりました。  
(2019年現在)

## 小笠原本來の生物相を保全する取り組みとは?

### ①オガサワラシジミの保護

シジミの餌木を増やしています!

#### オオバシマムラサキの植栽



母島のオオバシマムラサキは島内に広く分布しますが、生育地によって花期のズレや葉の毛の有無等かなり性質が異なります。新夕日ヶ丘では、花期が違う複数タイプを同所に植栽。オガサワラシジミが利用するのに適した場所を作っています。

アノールを入れない!  
増やさない!

### ②グリーンアノールの防除 侵入の防止!

防除柵と電気柵



グリーンアノール:  
アメリカ合衆国原産のイグアナ科のトカゲ。1980年代に父島から母島に侵入している。特定外来生物に指定。昆虫食。小笠原の昼行性の昆虫(チョウ、トンボ等)がアノールの捕食によって大きく影響を受けている。

#### 柵内の防除! アノールトラップ

柵内のアノールを捕獲するため、特別に開発された粘着トラップ(ゴキブリ用トラップのようなもの)を5,000個設置しています。月1回の頻度で点検・シート交換を実施。回収されたアノールは冷凍して内地の研究機関へ送り、分析されています。

### ③外来種の駆除

#### アカギとデリスの駆除



自然再生区が設置された2007年当時は、アカギ等の外来種が増えつつありました。が、2010年から駆除を開始。デリス(熱帯のツル性のマメ科植物。戦前、根茎から殺虫剤を作るために栽培された)の除去も同年頃から本格的に行われました。

その結果→

### アノールは減っている!



CPUEとは、トラップ100個当たりの捕獲頭数を表したもの。年間約600個体のアノールが捕獲されています(2017年度実績)。捕獲をしていない柵外と比較すると、アノールの密度を約1/10に抑制しているとの結果が出ています。

### 昆虫相は復活している!



▲新夕日ヶ丘に生息するハリジミヒメカタゾウムシ(母島固有種)。小笠原のヒメカタゾウムシの仲間は、飛躍的に進化・分化を遂げ、飛べない。

### 在来の森は再生している!



外来種駆除後、在来の樹木が自然に生えてきて、若い林が出来ています。徐々に(母島本來の在来樹の森)へと再生している様子は、在来種林再生の見本となっています。

### 近自然登山道工法で作った散策路MAP

#### MAP

『近自然登山道工法』とは、周囲にある木々や自然の石を利用した道づくり。この散策路は、島の人たちと協力して作りました。見晴らしの良い場所には、丸太を敷き詰めて道幅を広くし、手作りのベンチを置いています。

### 新夕日ヶ丘自然再生区全図



▲自然再生区は広大な範囲ですが、散策路が整備されているのは、上の工区(拡大図部分)となります。

拡大図がこちら

- アノール防除柵
- いろいろなオオバシマムラサキ植栽地
- ムニンヒメツバナの林
- 車道
- 遊歩道
- 固有種: 小笠原にしかいない種
- 広域種: 小笠原以外の場所にもいる種
- 階段
- 見晴らしの良い場所

### ご注意!

- ◆ 決められた道以外は入らないでください。
- ◆ 外来種を持ち込まないでください。
- ◆ 動植物はどらないでください。

太平洋(夕日が沈む方向)↓